第３学年〇組　国語科学習誘導案

教諭　中山　卓海

単元　読んだことを生かして書こう

（本校教育課程　国語科単元　第６項　１１月上旬～１１月中旬　１５時間）

|  |
| --- |
| 「単元の問題」を提起する根拠 |
| ○　子どもの興味・関心の実態　　本学級の子どもは，朝の読書タイムや休み時間に，植物や動物の図鑑や科学読み物，科学的・社会的な本を中心に読書を楽しんでいる。そのような子どもに，かまぼこやマヨネーズなどの身近な食品を提示し，その原料を考える食べ物変身クイズを行ったところ，「もっと食べ物の変身を調べたい。」「食べ物のへんしんについて図鑑や本で調べてみたい。」と発言する様子が見られ，身近な食品の加工のされかたについて興味を示していた。そこで，実際に食材の加工のされ方を題材とした本を読む時間を設定すると，「お米からお酒が作られることは初めて知った。」「食べ物の驚きの変身を詳しく調べて，他の人にも伝えたい。」などと発言していた。このように，本学級の子どもたちは，身近な食品が原料からどのように加工されているかについて本を読んで調べたり，調べたことを他者に伝えたりすることへの関心を高めている。○　子どもの能力の実態　　本学級の子どもは，これまでの説明的な文章を読む学習を通して，説明の順序や時間的な順序に気を付けて読み，書かれている内容の大体を捉えることや，説明文を書く上で筆者は読者に分かりやすく説明する工夫をしていることを意識して読むことができるようになってきた。また，筆者の考えを伝えるための中心となる文章を各段落から見つけることもできつつある。しかし，「始め」や「終わり」に書かれる抽象的な考えと「中」で書かれる具体的な説明とのつながりを意識して読むことはあまりできていない。これは，「始め・中・終わり」の組み立ての役割を理解したり，段落相互の関係に着目して読んだりすることができていないことが原因に挙げられる。 ○　社会からの要求　人は実生活の中のあらゆるところで説明的な文章を目にしており，説明的な文章を読む学習の価値は高い。また，携帯端末の進化やインターネットの普及により，様々な情報を誰もが簡単に手に入れられる社会となっている。その一方で，部分的な情報や自分に都合のよい情報だけを切り取り，間違った解釈やトラブルを生み出す現状も多くある。あふれる情報に対し，情報を正しく受け止め，自分に必要な情報を取捨選択したりするためには，部分的な情報だけでなく，情報全体や背後にある情報の発信者の考えに着目し，判断する必要性がある。このことから，説明的な文章を読む学習において，段落相互の関係に着目しながら，筆者の考えや事例との関係について考えたり，筆者の説明の工夫について自分の考えを明らかにしたりすることは意義深いと考える。○　教科系統上の要求　　本学級の子どもは，第１学年及び第２学年では，生き物や乗り物などの身近な事物に関する説明的な文章を読み，時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉える学習をしている。これを受けて，第３学年では，文章全体の構成や段落の中心を捉えたり，筆者の考えやそれを支える事例などの各段落の役割について考えたりする学習をする。この学習は，第４学年での，段落相互の関係を確かめながら読む学習につながり，第５学年及び第６学年での，文章全体の構成を捉えて，要旨を把握したり，叙述を基に，事実と感想，意見などの関係を捉えたりして読む学習に発展する。  |
|  |  |

|  |
| --- |
| 単　元　の　問　題 |
| せつめいの仕方に気をつけて読み，筆者の工夫を生かして食べ物へんしんブックをつくろう。○　せつめい文を読み，何が書かれているのかたしかめよう。○　筆者がどのように書き方を工夫しているか考えよう。○　筆者の工夫を生かして，食べ物へんしんブックをつくろう。 |
|  |
| 目　標 |
| ＜知識及び技能＞○　指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解することができる。○　比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。＜思考力，判断力，表現力等＞○　段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えることができる。○　書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えることができる。＜学びに向かう力，人間性等＞○　言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。 |
|  |  |
| 誘　導　の　着　眼 |
| 【着眼１】内容への感性を分析的な読みにつなげる単元構想子どもが，「『すがたをかえる大豆』の説明の仕方を生かして，自分のお気に入りの食べ物へんしんブックを作りたい。」という目的意識もち，「はじめ・中・終わり」の組み立てや，筆者の考えと事例との関係について叙述を基に捉えたりすることができるように，以下のように教材の内容への感性から表現形式を分析する読みにつなげる単元を構築する。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習過程 | 感性 | 分析的な読み方 | 手立て |
| 見いだす・見通す | ○　題材への興味・関心○　言語活動のイメージ○　内容への驚き・疑問 | ○　題名から文章の内容を予想する。 | ○　食材の加工や加工の工夫への興味・関心を高めることができるように，栄養教諭の食材紹介カードを読んだり，興味をもった食材に関する図書を読んだりする活動を設定する。○　言語活動へのイメージをもつことができるように，試しの文章を書いたり，試しの文章の課題や自らの願いを話し合ったりする活動を設定する。○　文章の内容への興味を高めることができるように，題名から文章の内容を予想したり，自分の知識や経験と比べて感想を書いたりする活動を設定する。 |
| 挑む | ○　文章の内容への興味・関心○　説明の巧みさへの驚き○　説明を工夫した理由についての追求 | ○　組み立てを捉え，中心文を表に整理する。○　事例の書き方や説明の順序を考える。○　筆者の立場で読む。 | ○　文章の内容や構造を捉えることができるように,言語活動を達成する過程で，各段落の中心をまとめる活動を設定する。○　筆者の説明の仕方やその理由について捉えることができるように,叙述を基に筆者の事例の順序性や事例を選んだ理由について考える活動を設定する。○　筆者の説明の仕方について考えを明確にすることができるように，自分の表現に生かしたい説明の工夫とその理由についてまとめる活動を位置付ける。  |
| 生かす・広げる | ○　言語活動達成の喜び○　新たな活動への意欲 | ○　目的に応じて，必要な情報を取り出す。 | ○　筆者の説明の仕方について,自分の学習や生活に生かすことができるように，子どもがまとめた筆者の説明の工夫を提示したり，その工夫を観点として文章を推敲したり，よさを交流したりする活動を設定する。 |

【着眼２】　説明の仕方を検討する学び合い「筆者はどのように具体的な例を説明しているのか。」「どうしてこのような順序で説明したのか。」などの筆者の説明の仕方について問いについて，自分や集団の考えを叙述に基づいた納得に導くことができるように，「挑む」段階において，以下のような学び合いへの支援をする。

|  |  |
| --- | --- |
| 活動 | 教師のねらいと手立て |
| 　文章の内容と構造を捉える | 「話題提示-具体的な説明-まとめ」という文章の組み立てや，「中」の段落が「工夫→食品名→手間のかけ方」という説明の順序になっていることを捉えることができるように，全文シートを活用し，大事な言葉や文にサイドラインを引いたり，中心文を表に整理したりする活動を設定する。 |
| 　筆者の説明の仕方について，自分の考えと他者の考えを交流し，より納得した考えを見出す | 　事例の順序や事例と筆者の考えの関係に着目し，筆者の説明の分かりやすさについて自分の考えを明確にすることができるように，自分と筆者の事例の出し方の違いや，「えだ豆」と「もやし」の事例の順序や必要性について子どもの思考をゆさぶる発問をする。 |

 |

展開計画（総時間数１５時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 主な学習活動 | 教師のねらいとその手立て | 評価の規準と観点 |
| 見出す・見通す | １　学習問題を設定し，学習計画を立てる。②中心問題　せつめいの仕方に気をつけて読み，筆者の工夫を生かして食べ物へんしんブックを作ろう。 | ○　「食べ物のへんしんについて，調べたことを分かりやすく伝えたい。」という思いを引き出すことができるように，食品の加工について知っていることや驚いたことを話し合う活動を設定する。○　説明の難しさを実感させ，学習への見通しをもつことができるように，試しの文章を書き，書く上での課題や解決の方法を話し合う活動を設定する。○　食べ物へんしんブックを作るための問いを焦点化することができるように，「すがたをかえる大豆」を読み，試しの文章と比べる活動を設定する。 | ○　「すがたをかえる大豆」を読み，説明の工夫を見つけることへの意欲を高めている。（主体的に学習に取り組む態度） |
| 挑む | 分析問題１　せつめい文を読み，何が書かれているのかたしかめよう。３　「すがたをかえる大豆」を読み，始め・中・終わりに分け，内容の大体を捉える。①４　「中」の事例を詳しく読み，段落の中心を捉える。② | ○　文章全体の組み立てを捉えることができるように，各段落の役割や「中」の段落のまとまりについて話し合う活動を設定する。○　「中」の段落の内容を捉えることができるように，各段落の「工夫」「食品名」「手間のかけ方」を表に整理する活動を設定する。 | ○　指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（知識・技能） |
| 分析問題２　筆者がどのように書き方を工夫しているか考えよう。５　「中」の事例の説明の仕方の工夫を考える。＜本時２／２＞２６　筆者の説明の工夫についてまとめる。① | ○　筆者の考えと事例とのつながりを捉えることができるように，「中」の事例の順序性や「えだ豆・もやし」を取り上げた理由について話し合う活動を設定する。○　筆者の説明の工夫とそのねらいについて自分の考えを明確にすることができるように，筆者の立場で工夫の理由を考えたり，自分たちが生かしたい工夫を出し合ったりする活動を設定する。 | ○　段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えている。（思考・判断・表現） |
| 生かす・広げる | 分析問題３　筆者の工夫を生かして，食べ物へんしんブックをつくろう。７　「すがたをかえる大豆」の説明の工夫を生かして，食べ物へんしんブックをつくる。⑤８　食べ物へんしんブックを読み合い，単元のまとめをする。① | ○　「すがたをかえる大豆」の説明の工夫を生かすことができるように，取材や構成などの各過程において，筆者の説明の工夫を示し，ふり返る場を設定する。○　学習への達成感や成就感を味わうことができるように，完成した食べ物へんしんブックと，試しの文章を比べて自己の成長を見いだす場を設定する。 | ○　書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。（思考・判断・表現）○　学びをふり返り，説明的な文章の工夫を見つけ，それを自分の表現に生かすことのよさを実感している。（主体的に学習に取り組む態度） |

授業（国語科）令和３年○月○日（○曜日）９：３０～１０：１５　　　　　　於：３年〇組教室

（１）主眼

事例の順序性や筆者がどのような理由で事例を選んだかについて話し合う活動を通して，段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えることができるようにする。

（２）本時における学びに没頭する子どもの姿

　　　筆者がどのような順序で説明しているかについて自分の考えを他者と交流する中で，「手間のかけ方」を表す言葉や，説明の順序を表す言葉に目をつけて，筆者の考えと事例とのつながりについて問い直したり，捉え直したりしている姿。

（３）準備　学びのあしあと，全文シート，読み取り表

（４）展開

|  |  |
| --- | --- |
| 学習活動と子どもの意識 | 誘導上の留意点（○）と評価（※） |
| １　本時学習のめあてを話し合う。　前回は，国分さんがどのような順序で大豆のへんしんを説明しているのか自分なりに考えたよ。今日はみんなで話し合って，国分さんの説明の工夫を見付けたいな。事れいのじゅんじょについて話し合い，筆者の工夫を見つけよう。２　「中」の事例の順序について考えを出し合う。　今までの説明文と同じように，「よく知っているものから，あまり知らないもの」の順序だと思うよ。理由は，読む人がだんだん面白くなるからだよ。　「いちばん分かりやすいのは」という言葉から，ぼくは「分かりやすいへんしんから，分かりにくいへんしん」の順だと思うよ。　「豆まきの豆」や「煮豆」はすぐにできるけど，「みそ」は一年ほど時間がかかるから，「手間がかからないものから、　手間がかかるもの」の順だと思うよ。３　筆者の説明の工夫について話し合う。　「えだ豆ともやし」は，大豆から出来ていることを知らない人が多いから，伝えたかったのではないかな。　でも，人によっては「油あげ」や「ゆば」の方が知らない場合があるよね。それに，手間もあまりかかっていないよ。例を出す理由は，自分の考えや伝えたいことを詳しく説明するためだったよね。国分さんの伝えたいことって何だったかな。　「大豆はいろいろな食品にすがたをかえていること」を説明するために，「これらとは他」の例を説明したと思うよ。　終わりの段落にだけ，「昔の人々のちえ」とあるから，「えだ豆」や「もやし」のように，収穫する時期をかえる工夫は，「昔の人のちえのすごさ」を説明するために必要だったと思うよ。４　本時の学習をまとめ，ふり返りをする。「始めと中」や「中と終わり」のつながりについて考えたら，　筆者は，自分が伝えたいことや話題を読む人に詳しく説明するために，「中」の事例の順序や選び方を工夫していることが分かったよ。僕も，自分が伝えたいことにぴったりな例を選んだり，伝えたいことが伝わりやすい順序にしたりしてみたいな。 | ◯　本時学習のめあてをつかむことができるように，前時の学習をふり返り，見出した問いを確かめる。 ○　事例の説明の仕方について，叙述を基に考えることができるように，「どのような順序で」「どこから考えたのか」を明確にしながら発言するように促す。 ○　事例の順序性に対する子どもの考えを焦点化することができるように，前時までの子どもの考えを見取り，「知っているものから，知らないもの」「あまり変わらないものから，大きく変わるもの」「手間（時間）がかからないものから，手間（時間）がかかるもの」「その他」という意見に区別しながら意図的指名や板書をしたりする。○　事例の説明の仕方の工夫について問いを見出し，叙述を基に自分の考えをもつことができるように，「えだ豆ともやし」の事例は，事例の順序性から逸れているという子どもの気づきを引き出し，筆者がどのような理由で最後の事例として「えだ豆ともやし」を紹介したかという問いについて考える場を位置付ける。○　事例の挙げ方と，筆者の考えとの関係について，叙述を基に捉えることができるように，事例の役割を問い直したり，「始め」や「終わり」の段落を比較したりして読む活動を位置付ける。※　段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えている。○　自らの学びを確かにするために，「今日の学習で分かったこと」「分かった理由」「今後の学習に生かしたいこと」の視点でふり返り活動を行うようにする。 |